



News Bulletin

The Japanese Division of
the International Academy of Pathology

2011 Number 3

国際病理アカデミー日本支部

Published quarterly
by the Japanese Division
of the International
Academy of Pathology

IAP 日本支部設立 50 周年記念事業について

IAP 日本支部会長 松原 修

OFFICERS

PRESIDENT

O. Matsubara, M.D.(12)
National Defense Medical College

PAST PRESIDENT

H. Hashimoto, M.D.(12)
Research Institute of Clinical Pathobiology

PRESIDENT-ELECT

SECRETARY-TREASURER

R. Katoh, M.D. (12)
University of Yamanashi

COUNCILLORS

M. Kuroda, M.D.(11)
Fujita Health University
Y. Nakatani, M.D.(11)
Chiba University
T. Yoshino, M.D.(12)
Okayama University
A. Iwashita, M.D.(12)
Fukuoka University
T. Moriya, M.D.(13)
Kawasaki Medical School
Y. Oda, M.D. (13)
Kyushu University

COMMITTEE CHAIR

Education, Chair

M. Shimizu, M.D.(12)
Saitama Medical School

Finance

H. Iwasaki, M.D.(11)
Fukuoka University

Nomination, Chair

H. Hashimoto, M.D.(12)

VICE PRESIDENT, IAP

R. Y. Osamura, M.D
International University of
Health and Welfare (IUHW)

IAP 日本支部設立について、故太田邦夫先生が書かれた「IAP 日本支部、歴史・背景ならびに展望」の中に、「1961 年に日本病理学会評議員 40 名の参加を得て設立し、その年の Chicago における IAP 本部理事会で日本支部の加入が認められた。」と「国際病理アカデミー日本支部 25 周年記念号」に記述が残っている。1961 年に設立されたということは、今年 2011 年が丁度設立 50 周年ということになる。今年日本病理学会も 100 周年で、3.11 東北大震災にもかかわらず記念式典などの記念事業を成功させたことは記憶に新しい。IAP 日本支部の会員数の推移、IAP 名古屋 Congress の成功、毎年秋の教育セミナーの盛況ぶり、日韓・日台スライドセミナーをみても、IAP 日本支部が確実に発展してきていることが分かる。これには会員の協力、理事役員の献身的な働きがあったからこそと考える。中でも石川栄世先生、故福田芳郎先生、故遠城寺宗知先生、鈴木 実先生、牛込新一郎先生、長村義之先生、諸星利男先生、橋本洋先生といった歴代の会長をはじめとする理事・役員の先生方のおかげが大であったと大変感謝する次第である。50 年という節目にあたり、IAP 日本支部の今までの歩みと将来への展望を考えて記念事業を計画したいと考えた。このことは、2010 年第 3 回理事会、2010 年度総会において議論され、承認されている。

ここに、記念事業についてどういうことを行おうとしているかをお話しし、会員皆様のご理解とご協力をお願いしたいと考えています。

IAP 日本支部設立 50 周年記念事業の骨子は、

1. 記念式典の挙行
2. 記念国際シンポジウムの開催
3. 記念誌の発行

の 3 事業です。

各事業の概要は、以下のようなものです。

1. IAP 日本支部設立 50 周年記念式典について

日時：11 月 18 日（金曜日）時間は 19：00 - 21：00

場所：日本教育会館（第 57 回病理学会会場）9 階宴会場（喜山倶楽部）

東京都千代田区一ツ橋 2-6-2、03-3262-7661

会費：会費制、規模は立食 300 名まで可能

参加者：1) 会員、理事・役員、役員経験者

2) 招待者（国内）：病理学会理事長、Silverberg 先生ご夫妻

3) 招待者（国外）：主としてアジア、少数オーストラリア、ヨーロッパ、米国

4) 賛助会員と企業から

2. 50 周年記念国際シンポジウムの開催について

テーマ：Surgical Pathology Update 2011

モデレーター：長村義之（国際医療福祉大学教授・病理診断センター長 三田病院）
Stevens G. Silverberg (Professor Emeritus, Department of Pathology, University of Maryland, USA)

演者：G Klöppel（ドイツ）、VN Adsay（米国）、G Zamboni（イタリア）、R Eckstein（オーストラリア）、森谷卓也（川崎医大）

3. 50周年記念誌の発行について

- 1) 編集基本方針：IAP 日本支部の今までの歩みの記録 (archives) を中心とする、お金をかけない、執筆依頼は絞り込んで、形式的祝辞原稿はやめる
- 2) 装丁：A4 判、カラー + CDR（本に収録できなかった写真など）
部数：800 部 全会員に無料配布
- 3) 内容：IAP 日本支部設立 50 年の歩み、記録、会則・会員数の推移・役員一覧、シンポジウム・スライドセミナーの記録、湘南セミナーの記録、日韓スライドセミナー、日台スライドセミナー、APIAP の記録、IAP 国際会議の記録、Award の記録（功労賞・Silverberg 病理診断教育賞・病理診断学術奨励賞）など、外国からのメッセージ

この IAP 日本支部設立 50 周年記念事業を進めるにあたって、広く会員皆様のご協力もお願いしたいのですが理事・役員を中心としたこの様な組織で当たろうと考えています。

企画：松原^o、長村、牛込、橋本、佐野、加藤（洋）
財務：加藤（良）^o、諸星、長村、清水、内藤、岩崎
記念式典：清水^o、加藤（良）、根本、岩下、小田、清川（司会）
国際シンポ：長村^o、森谷、吉野、白石、黒田
記念誌：中谷^o、内藤、加藤（良）、根本、山邊、清水、松原
どうか、皆様のご理解とご協力をお願いします。^o 責任者

IAP 日本支部 50 周年記念 国際シンポジウムの開催にあたって

—素晴らしい内容・素晴らしい演者—
是非ご参加ください。

IAP 副会長（アジア） IAP 日本支部元会長 長村義之
本年度は、IAP 日本支部（JDIAP）の発足 50 周年を迎えています。本年 2 月末—3 月初旬には、USCAP は 100 周年、を 4 月末—5 月初旬には、日本病理学会が 100 周年を迎えるなど、いろいろと節目にあたる年といえましょう。2 年毎に開催される IAP 国際会議は昨年 10 月に第 28 回がサンパウロで開催され、50 年以上の歴史があります。JDIAP もそれに近い歴史を有する誇るべき歴史を有するものと言えます。

IAP 日本支部では、伝統的に日本病理学会秋期総会の翌日

の午前中に開催される教育シンポジウムおよび午後のスライドセミナーを続けて参りました。最近では、病理学会の 2 日目の午後には、病理診断に関するシンポジウムと病理診断シリーズが開催されるようになり、日常に病理診断に携わっておられる方々は、病理学会 2 日目から参加し、IAP 日本支部の生涯教育に参加されることも多いとかがっています。

今回は、午前中の教育シンポジウムとして、50 周年を記念して海外からの演者の方を多くお招きして“国際シンポジウム”として開催することになりました。これまで、10 年間にわたり、IAP 主催の Surgical Pathology Update を一緒に Co-director をさせていただいた Dr. Stevens G. Silverberg と司会を致します。大変光栄と存じます。

当日のプログラムに見られますように、内容は (1) 神経内分泌腫瘍 NET、(2) 肝腫瘍、(3) 乳腺、(4) IgG 関連疾患、(5) 隣臓癌と多岐にわたっていますが、いずれも日常の病理診断に極めて重要な内容ばかりです。演者は、国際的にも第一線で活躍されている高名な方であり、話の内容も極めてわかりやすく、魅力的な方ばかりです。海外からの演者の選定には、日本病理学会秋期総会の諸星利男会長のご尽力による場所が多くこの場をお借りして御礼申しあげます。

5 項目の内容の中で、(1) (2) (5) の臓器では、WHO の最新の腫瘍分類を御紹介いただきます。まさにタイムリーと言えると思います。

このシンポジウムでは、国際的な視点から、日常の病理診断能力の向上を目指すと同時に、“良い講演の進め方”についても習得する良い機会と思います。

—素晴らしい内容・素晴らしい演者—の 50 周年記念シンポジウム是非多くの方々のご参加をお願い致します。

IAP 日本支部 50 周年記念国際シンポジウム

November 19, 2011 9:00 – 12:00

テーマ：Surgical Pathology Update 2011

モデレーター：長村 義之（国際医療福祉大学教授・病理診断センター長 三田病院）

Stevens G. Silverberg (Professor Emeritus, Department of Pathology, University of Maryland, USA)

演者：

1. Neuroendocrine tumors : WHO Classification 2010
Günter Klöppel (Department of Pathology, Technical University München, Germany)
2. Neoplastic liver disease : WHO Classification 2010
Robert Eckstein (Pacific Laboratory Medicine Services, Royal North Shore Hospital, Australia)
3. Diagnostic clue in breast Pathology
Takuya Moriya (Department of Pathology, Kawasaki Medical School)
4. IgG4-related systemic disease
Giuseppe Zamboni (Department of Pathology, University of Verona and Ospedale Sacro Cuore-Don Calabria, Italy)

5. Pancreatic cancer : WHO Classification 2010

N Volkan Adsay (Department of Pathology, Emory University, USA)

2011年 IAP スライドセミナーの紹介

今年度の IAP 日本支部主催のスライドセミナーは、11月19日(土曜日)に東京慈恵会医科大学で開催されます。本年度はアンケートで希望の多かった4つのコース、すなわち、①前立腺癌(講師:鷹橋浩幸先生)、②卵巣腫瘍(講師:安田政実先生)、③皮膚色素性病変(講師:泉美貴先生)、④骨腫瘍(講師:小田義直先生)が新規で加わります。いずれも日常診断に役立つ実践的な内容となっています。なお、「唾液腺腫瘍」「神経系腫瘍」の2つのコースは本年度が最終となります。若い先生から経験を積まれた先生方まで多数の参加をお持ちしています。教育担当:清水道生

新規コース講師

前立腺癌 —良悪性の鑑別を中心に—

東京慈恵会医科大学病理学 鷹橋浩幸

昨今の前立腺癌罹患率の上昇、血清PSA検査の普及などにより、前立腺針生検診断の機会は確実に増加しています。本コースでは前立腺針生検に的を絞り、針生検組織において癌と鑑別すべき対象(cancer mimickers)と診断におけるポイント、良性病変と紛らわしい癌などにつきHE、免疫染色所見、臨床的事項などに関して解説致します。



卵巣腫瘍の病理

埼玉医科大学国際医療センター
病理診断科 安田政実

卵巣腫瘍取扱い規約(以下、卵巣規約)の改訂版が2010年に上梓された。卵巣規約は他の癌取扱い規約とは大幅に性格を異にし旧版がそうであるように、些細な取扱い事項を知らしめるためのものではない。多種多様な卵巣腫瘍・腫瘍様病変の形態的特徴を紹介することを第一義としている。ただし、改訂に際しては概念・定義や組織像の概説にも力が込められている。ここ10~20年ほどの間に、とりわけ境界悪性腫瘍の捉え方に変遷が生じ、原則的には漿液性腫瘍に限定して微小浸潤も容認することとなった。本コースでは、日常的に頻度の高い卵巣腫瘍(主として上皮性)・腫瘍様病変を取り上げ、これらの形態像・鑑別疾患、背景(歴史・現状)、そして臨床(婦人科)への対応について解説する。



「皮膚色素性病変の病理診断」

東京医科大学 医学教育学講座
泉美貴

色素性母斑と悪性黒色腫との鑑別は、病理医を最も悩ませる難題の一つです。スピッツ母斑や異形成母斑も理解の難しい疾患概念です。



本セミナーでは、受講後に色素性疾患について、「すっかりわかった気持ちに」なって頂くことを目標にしています。稀な例外的事項に時間を取られることなく、疾患の定義や成り立ちを中心に述べ、「曖昧」であった知識を「クリアカット」に整理できるよう努めます。

骨腫瘍の病理

九州大学大学院医学研究院
形態機能病理 小田義直

原発性悪性骨腫瘍では、悪性リンパ腫と骨髄腫を除けば、日本、欧米ともに骨肉腫、軟骨肉腫、Ewing肉腫、脊索腫、骨悪性線維性組織球腫の順に多く認められる。本セミナーではこれらの頻度の高い悪性腫瘍について鑑別診断を含めて解説するとともに、骨形成性腫瘍および軟骨形成性腫瘍全般について系統的に理解することを目指す。さらに骨巨細胞腫をはじめとした比較的頻度の高い良性腫瘍および腫瘍類似病変についても解説する。



2011年 IAP 病理学教育セミナーのお知らせと申し込み案内

日時:平成23年11月19日(土) 9:00 - 17:30
場所:東京慈恵会医科大学(東京都港区西新橋3-25-8)

教育シンポジウム 9:00 - 11:45

主題:Surgical Pathology Update 2011

(IAP日本支部設立50周年記念)

モデレーター:長村義之(国際医療福祉大学教授・病理診断センター長 三田病院)

Stevens G. Silverberg (Professor Emeritus, Department of Pathology, University of Maryland, USA)

1. Neuroendocrine tumors : WHO Classification 2010
Günter Klöppel (Department of Pathology, Technical University München, Germany)
2. Neoplastic liver disease : WHO Classification 2010
Robert Eckstein (Pacific Laboratory Medicine Services, Royal North Shore Hospital, Australia)
3. Diagnostic clue in breast Pathology
Takuya Moriya (Department of Pathology, Kawasaki Medical School)

4. IgG4-related systemic disease

Giuseppe Zamboni (Department of Pathology, University of Verona and Ospedale Sacro Cuore-Don Calabria, Italy)

5. Pancreatic cancer : WHO Classification 2010

N Volkan Adsay (Department of Pathology, Emory University, USA)

TEL 042-984-0609 Fax 042-984-0609

IAP 日本支部 常任幹事 加藤 良平

(教育シンポジウム担当)

山梨大学医学部人体病理学講座

〒 409-3898 山梨県中央市下河東 1110

TEL 055-273-9529 FAX 055-273-9534

当日はご自由にご参加ください。病理専門医の資格更新単位として5単位が得られます。

参加費(ハンドアウト代含む):IAP 日本支部会員 3,000 円、非会員 4,000 円。

(担当:加藤良平)

2011年IAP日本支部・病理診断 学術奨励賞の公募

下記の要領にて2011年IAP日本支部・病理診断学術奨励賞を公募いたします。

記

賞の名称:IAP日本支部・病理診断学術奨励賞

応募資格:日本の医療機関に勤務する若手(論文掲載時40歳未満)の病理医(IAP日本支部の会員か否かは問わない)

選考対象:2010年1月から12月の間に雑誌に公表された診断病理分野における優れた英文論文(1編)。但し、留学先での仕事ではなく日本での仕事のみ。筆頭著者を原則とする。

受賞者数:3名以内

賞の内容:賞状と副賞

スライドセミナー 13:15 - 17:30

1 時限目 13:15 - 15:15

敬称略

*A-1	前立腺癌—良悪性の鑑別を中心に— 鷹橋 浩幸(東京慈恵会医科大学病理学)
*B-1	卵巣腫瘍の病理 安田 政実(埼玉医科大学国際医療センター病理診断科)
C-1	唾液腺腫瘍の病理—新WHO分類を踏まえて— 長尾 俊孝(東京医科大学人体病理学講座)
D-1	大腸ポリープの病理診断 岩下 明德(福岡大学筑紫病院病理部)

2 時限目 15:30 - 17:30

*A-2	皮膚色素性病変の病理診断 泉 美貴(東京医科大学医学教育学講座)
*B-2	骨腫瘍の病理 小田 義直(九州大学大学院医学研究院形態機能病理学)
C-2	神経系腫瘍(中枢系および末梢神経) 広瀬 隆則(徳島県立中央病院病理診断部)
D-2	乳腺針生検の病理診断 森谷 卓也(川崎医科大学病理学2)

*印は新規コース。事前資料としてバーチャルスライド(DVD-R)を送付予定です。病理専門医の資格更新単位として10単位が得られます。

お申し込みは2011年8月1日(月)正午より開始致します。

IAPのホームページ(<http://www.iapjapan.org/index.html>)

に直接アクセスして、お申し込みください。

受講料(1コース):IAP日本支部会員7,000円、非会員12,000円です。(教育担当:清水 道生)

連絡先:IAP日本支部 教育委員長 清水 道生

(スライドセミナー担当)

埼玉医科大学・国際医療センター・病理診断科

〒350-1298 埼玉県日高市山根1397-1

応募方法

推薦、自薦ともに可とするが、推薦を原則とする。(しかし、推薦者がいない場合でも受付ける。)

申請時に必要なもの:

1. 応募者の履歴書
2. 推薦書(推薦人がある場合)ないし、応募理由書(推薦人がいない場合)
A4用紙2枚以内(書式は問わない)
3. 論文の別刷7部(1部はオリジナル、他はコピー可)

応募の締切:2011年8月31日(当日の消印有効)

宛 先:〒409-3898 山梨県中央市下河東1110 山梨大学

医学部 人体病理学講座 IAP日本支部事務局内

「IAP日本支部・病理診断学術奨励賞」選考委員

会宛

選考方法・発表

IAP日本支部が指名する「IAP日本支部・病理診断学術奨励賞」選考委員会(日本病理学会、日本臨床細胞学会からの外部委員も参加)において選考する。なお、受賞者は秋のIAP日本支部年次総会における表彰式に参加する。また、受賞者をIAP日本支部のNews Bulletin 紙に加え、日本病理学会、日本臨床細胞学会の機関誌に公表する。

Good bye Tony, our dearest friend. : Dr. Antony Leong の急逝を悼む

IAP 副会長 IAP 日本支部元会長 長村義之
約一月半前の6月4日にマレーシアの Dr. Norain Karim から突然”Sad news”として飛び込んできたのが以下のメールであった。

Dear Colleagues

It is very hard for me to break this sad news to all of you.

Sadly, to inform you that our dearest colleague, Prof Anthony Leong has passed away yesterday in Australia. We will miss him! May God bless his soul

Best regards Norain

何ということであろうか?!

つい半年前、1月7日—9日にクアラランブールの近郊の Swan Convention Center, Sunway Medical Center, Petaling Jaya, Selangor Darul Ehsan, Malaysia で開催された第6回アジア太平洋分子病理免疫組織学会 The Sixth Annual Scientific Meeting Asia-Pacific Society for Molecular Immunohistology (APSMI) で、いつもと変わらず元気で明るい Tony と再会し、何時ものように有意義で楽しい学会をすごしたのに、突然の訃報であった。私たちには事前には知らされていなかったが、肝細胞癌の破裂が死因であったと伝えられた。

私が Tony と初めて出会ったのは、1998年に Hong Kong で開催された IAP 国際会議の頃でシドニーであったと記憶している。当時彼は Hong Kong で活躍をしていた。後にオーストラリアの Adelaide に活躍の場を移したが、その時代の Tony は驚くような勢いで素晴らしい論文を書き続け、病理診断関係の教科書を多数出版していた。彼が、他に先駆けて行った“組織の固定、包埋などへの Microwave の導入も”もこの時期である。これはその後製品化されて、世界各国〔日本を含め〕で市場を広げている。何か大きな力が彼を後押ししていると感じるような活躍であったと思う。大柄な背丈、大きな朗らかな声、誰をも友人にしてしまう親しみやすさ、それに何にもまして膨大な知識の持ち主が Tony であった。

2000年の IAP 国際会議の開催を巡って名古屋とオーストラリアが接戦になったことがあった（他の学会でもしばしば相手となる友好的な宿敵と言えよう）。その際に、オーストラリアは、どうやって作戦を練っているのかが、日本側の大きな関心事であった。ある日苦慮の末、Tony に友達として無理をしない範囲でオーストラリアの内情を教えてくださいませんかと尋ねてみたところ、“オーストラリアは今回は出ない”とあっさりとした答えが帰って来た。何か事情があって辞退する事になったとも考えられるが、日本側一同安堵して、2000年の IAP Nagoya へ立候補し、オーストラリアからの応援も受けて無事決定された。日本は、その次2002年の IAP の開催地候補となった Brisbane を全面的に応援するこ



Dr. Antony Leong

とになった。Tony の勇気ある一言にいまでも感謝している。お互いに助け合いながら、共により良い病理診断学を目指す事のできる、公私共に信頼できる大切な友達に巡り合えた幸せにも感謝している。

2002年の Brisbane の IAP の際には、それまで Tony と案を練っていた“アジアでの免疫組織化学と分子病理学の振興”のための学会を立ち上げる具体的な相談をし、毎年アジアの各地で開催することとなった。それが前述の Asia-Pacific Society for Molecular Immunohistology (APSMI) である。これまで、Beijing, Bangkok, Singapore Penang, Shantow に続いて、今年の1月にマレーシアで第6回が開催され、次回第7回は2012年バリ島で開催されることが決まっている。Tony は初代の会長を立派に務めてくれて、APSMI の基盤を作ってくれた。私が、2代目、中国の Dr. Jiang Gu が3代目、そして現在タイの Dr. Pongsak が4代目の会長をつとめている。第5代会長は Hong Kong の Dr. Gary Tse に決まっている。いずれも Tony の推薦を受けた素晴らしい人たちである。

中国系マレーシア人としてマレーシアに生まれ、オーストラリアに国籍を移した Dr. Anthony Leong が、その人生を全力投球して、最終的にマレーシアに落ち着き、アジアでの病理診断の拠点築かんとしている矢先の思いがけないまた早すぎる逝去であった。アジアは実に惜しい病理学者を失ってしまった。またどこかで、あの大きな体で大声で、親しみやすく“Bob!”、と声をかけてくる Tony に会えないことが信じ



Fifth APIAP Congress, Singapore May 2007,
(前列左側より3人目が Dr. Antony Leong)

られない気がしている。Tonyの安らかなご冥福を心から祈っている。

Good bye, Tony, our dearest friend. Thank you very much for your longstanding and very intimate friendship. May God bless you. Bob

第12回日本・韓国合同 スライドカンファレンス

第12回日本・韓国合同スライドカンファレンスが韓国 South Korea、太田（デジョン）Daejeon, Yousung Hotel（ユソンホテル）にて開催されます。詳しい内容は下記の通りです。

今後 Reservation 等はメール、ホームページ上にてご案内いたします。

是非とも皆様のご参加をお待ちしております。

会期：2011年10月28 - 29日

場所：Yousung Hotel, Daejeon, South Korea 韓国

The 12th Korean-Japanese Conjoint Slide Conference of International Academy of Pathology (IAP)

Conference President : Prof. Shin-Kwang Khang

Oct. 28 ~ 29, 2011, Yousung Hotel, Daejeon

Section 1 : 2011.10.28 (Friday)

The 12th Korean-Japanese Joint Slide Conference of IAP

13 : 00 ~ 14 : 15 Registration

14 : 15 ~ 14 : 30 Welcome remarks

14 : 30 ~ 15 : 30 Part 1 (4 cases, 2 cases each)

15 : 30 ~ 15 : 50 Coffee break

15 : 50 ~ 16 : 50 Part 2 (4 cases, 2 cases each)

16 : 50 ~ 17 : 50 Special Lecture, presented by Dr. Eduardo Araujo (Argentina)

17 : 50 ~ 18 : 00 Photo time

18 : 30 ~ 20 : 30 Welcome Banquet

Section 2 : 2011.10.29 (Saturday)

The 9th Korean-Japanese Society of Bone & Soft Tissue Tumor Pathology

The 5th Korean-Japanese Society of Pulmonary Pathology

The 4th Korean-Japanese Society of Renal Pathology

The 1st Korean-Japanese Society of Endocrine Pathology

8 : 00 ~ 8 : 30 Registration

8 : 30 ~ 11 : 30 Slide Conference

(Bone & Soft Tissue, Lung, Kidney, Endocrine)

11 : 30 ~ 11 : 40 Photo time

11 : 40 ~ 12 : 20 Lunch

第29回 IAP 国際会議

会期：2012年9月30日 - 10月5日

場所：南アフリカ・ケープタウン

第4回日本・台湾合同 スライドカンファレンス

会期：2012年10月26日（金） - 10月27日（土）

場所：（公財）がん研究会有明病院

第7回 アジア太平洋 分子免疫組織学会（APSMI）

会期：2012年（日程は未定）

場所：バリ島・インドネシア



あとがき

残暑お見舞い申し上げます。

2011年 News Bulletin No.3をお届けします。今回は主として「IAP 日本支部発足50周年の記念事業」の記事と「2011年病理学教育セミナー」の内容について掲載しました。今年にはIAP 日本支部50周年を迎え、そのお祝いの記念会が病理学会の2日目の夕方に行われます。その内容がだいぶ煮詰まりましたのでお知らせいたしました。本年度のスライドセミナーでは、4つの新規コースが企画されています。受講申し込みはIAP 日本支部ホームページ上にて8月1日（月）開始です。特に新規コースについては例年、早期に定員に達し、締め切りとなりますので、受講を希望される方はどうぞお早めに申し込みください。なお、同日の午前中に行われる教育シンポジウムは、IAP 日本支部発足50周年記念の国際シンポジウムとなります。このシンポジウムには海外から第一線で活躍されている高名な方をお招きいたしました。こちらにも多くの方々が参加されますことを期待しております。ちなみに参加費は昨年通りです。

最後に、IAP 日本支部とも関係が深かった Dr. Antony Leong のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

残暑なお厳しきおり、どうかお体にお気をつけてお過ごしください。

*事務局より：メールアドレス、所属先等、登録内容に変更がございましたら下記事務局アドレスまでお知らせください。

〒409-3898 山梨県中央市下河東1110

山梨大学医学部人体病理学講座

加藤良平 / 近藤哲夫 / 河野嘉代子

Tel : 055-273-9529 / Fax : 055-273-9534

E-mail : jdiap@med.yamanashi.ac.jp